

みとしん MITOSHIN Business survey 景気動向調査 vol.62

2017年1~3月期

業況判断は3期連続改善

〈概況〉

今期(2017年1~3月期)の茨城県内中小企業の業況判断D.Iは、前期(2016年10~12期)より1.2ポイント上昇の▲3.0と3期連続改善となりましたが、来期(2017年4~6月期)予想については、今期実績比▲4.6と1.6ポイント低下の見通しとなっています。

収益面では、前期比売上額判断D.Iが0.6と1.8ポイントの低下、同収益判断D.Iは▲4.0と5.8ポイントの低下となりました。前期見通しとの比較では、売上額判断D.Iは1.0ポイント低下、収益額判断D.Iは2.4ポイント低下の結果となりました。

雇用面では、人手過不足判断D.Iが▲11.7と、前期比マイナス幅が0.4ポイント拡大し、依然として人手不足感の強い状態が続いています。

資金繰り判断D.Iは、前期▲10.7から当期は▲10.1、来期予想▲10.9と厳しい状態が続いています。設備投資実施企業割合は、前期の7.8%から当期は8.4%と0.6ポイント増加しましたが、来期は10.0%と更に上昇を見込んでいます。

業種別業況判断D.Iについては、製造業、小売業、サービス業、建設業の4業種で改善し、建設業は3期連続改善超となりました。地域別業況判断D.Iについては、県央、県北、県西、鹿行の4地域で改善し、特に県西地域では前期▲15.0から当期0.0、鹿行地域では前期▲8.0から6.1と大幅改善しました。

【業種別天気図】

	2016年 10~12月期 (前期)	2017年 1~3月期 (今期)	2017年 4~6月期 (見通し)
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

【地域別天気図】

		2016年 10~12月期 (前期)	2017年 1~3月期 (今期)	2017年 4~6月期 (見通し)
地域名	茨城			
	県央			
	県北			
	県南			
	県西			
	鹿行			

この天気図は、景気指標を総合的に判断して作成しております。
 は業況改善、 は業況悪化、 は業況変化なしを表しています。

好調 ← → 低調

●みとしん景気動向調査とは

本調査は水戸信用金庫のお取引先(茨城県内)の経営者を対象として、各店の担当者が質問事項を用意し聞き取る方法で行い、各質問事項で「増加した」(良い)とする企業が全体に占める構成比と、「減少した」(悪い)とする企業の構成比との差(判断D.I)を用いて分析を行っています。対象先数は、製造業92社、卸売業59社、小売業98社、サービス業93社、建設業99社、不動産業59社の合計500社で、今回の回答先数は497社(回答率99.4%)でした。本調査結果は、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当金庫が正確性および完全性を保証するものではありません。

景況

今期(2017年1~3月期)の業況判断D.Iは前期の▲4.2から1.2ポイント上昇の▲3.0と3期連続改善となりましたが、来期は▲4.6と後退する予想となっています。

収益面では、前年同期比売上額判断D.Iが2.4、同収益判断D.Iが▲1.8と、ともに前期比2.0ポイントの改善となりました。また、前期比売上判断D.Iが0.6と前期比1.8ポイントの低下、同収益判断D.Iは▲4.0と5.8ポイントの低下となりました。販売価格判断D.Iは▲0.2と、前期比1.0ポイントの低下となり、仕入価格判断D.Iも前期比2.5ポイント低下の8.0となりました。

雇用面では、人手過不足判断D.Iが▲11.7(マイナスは人手「不足」超)と、前期比0.4ポイント低下し、依然として人手不足感が解消されない状況が続いています。また、残業時間(「増加」-「減少」)D.Iは▲4.8と前期比5.2ポイント低下と

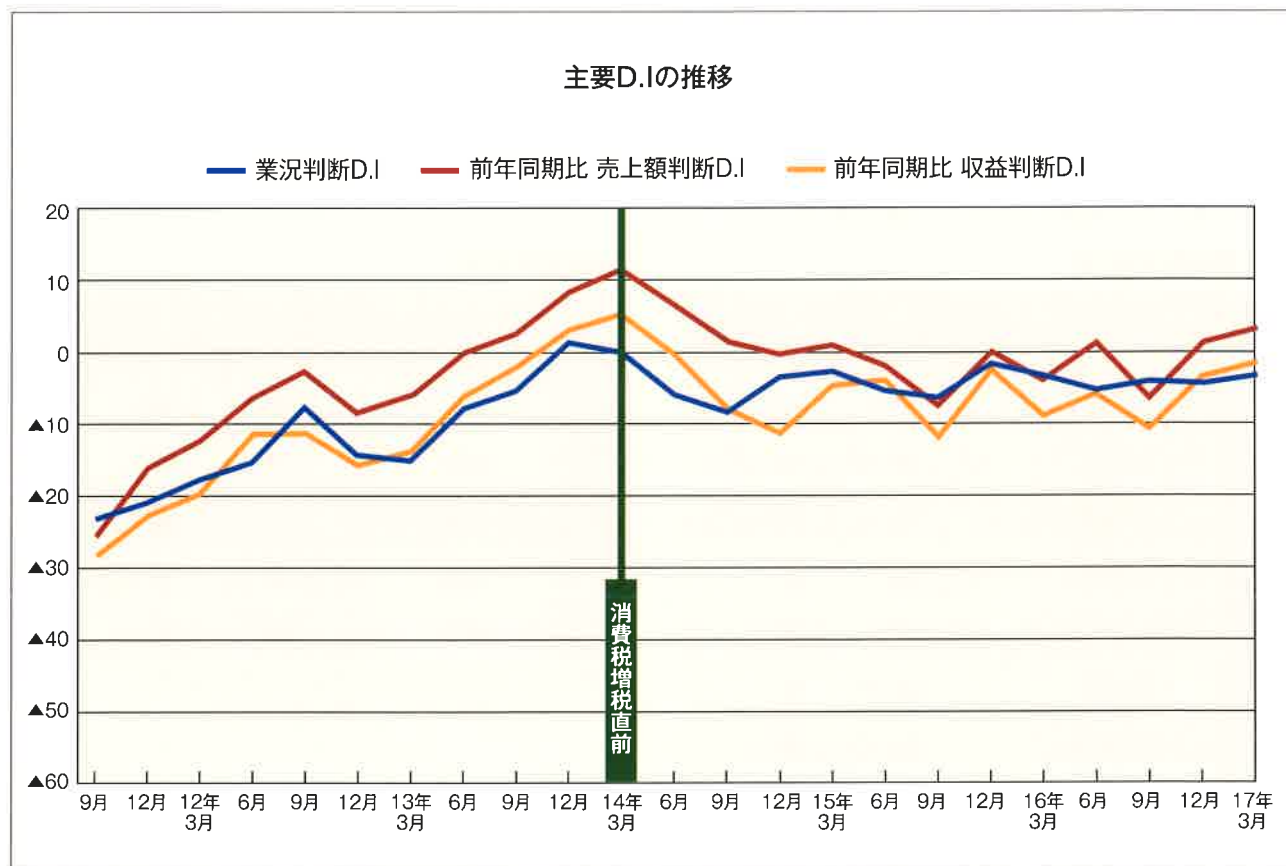
なりました。

資金繰り判断(「楽」-「苦しい」)D.Iは▲10.1と、前期比0.6ポイント改善となりました。

設備投資実施企業割合は前期比0.6ポイント上昇の8.4%となりました。

業種別の前期比業況判断D.Iについては、製造業(▲7.6→▲6.6)、小売業(▲7.2→▲5.1)、サービス業(▲10.9→▲3.3)、建設業(6.1→13.3)で改善となる一方で、卸売業(▲3.4→▲13.6)、不動産業(▲1.7→▲10.2)で悪化となりました。地域別の業況判断D.Iは、県央(▲6.5→▲3.6)、県北(2.9→4.0)、県西(▲15.0→0.0)、鹿行(▲8.0→6.1)で改善となる一方で県南(▲4.3→▲9.1)で悪化となりました。

主要D.Iの推移



見通し

来期2017年(4~6月期)の予想業況判断D.Iは▲4.6と、今期実績比1.6ポイント低下の見通しとなっています。予想売上額判断D.Iは0.8で今期実績比0.2ポイントの改善、予想収益判断D.Iは▲0.4と今期実績比では3.6ポイントの改善を見込んでいます。業種別の予想業況判断D.I

は、卸売業、小売業、サービス業、不動産業で改善の見通しとなっており、地域別では県央、県西、鹿行で改善を見込んでいます。

製造業 ～今期改善、来期は低下予想～

Manufacturing industry

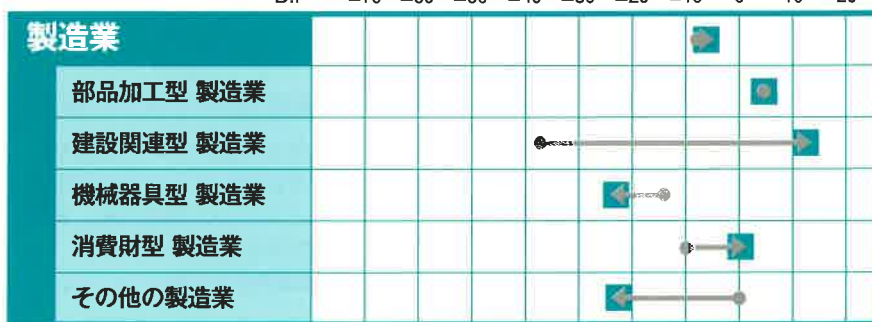
今期の業況判断D.Iは前期比1.0ポイントの改善の▲6.6と、3期連続改善となりましたが、来期は今期実績比6.6ポイント低下の▲13.2と悪化幅拡大の予想となっています。

前期比売上額判断D.Iは▲4.4と前期比6.6ポイントの悪化、同収益判断D.Iは▲9.9と、同3.4ポイントの悪化となりました。また、資金繰り判断D.Iは▲9.9と6.4ポイントの改善となりました。

中分類業種別では、「建設関連型製造業」で47.5ポイントの大幅改善、「消費財型製造業」で10.5ポイントの改善となりました。一方で、「機械器具型製造業」で7.1ポイントの低下、「その他の製造業」で20.8ポイントの大幅低下となりました。「部品加工型製造業」では、ほぼ横ばいの結果となりました。

業況判断D.Iの推移

D.I ▲70 ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20



■ 今期 (2017年1~3月期) ● 前期 (2016年10~12月期)

製造業における経営上の問題は？ (複数回答)

- ① 売上の停滞・減少……39.6%
- ② 利幅の縮小……30.8%
- ③ 同業者間の競争の激化……26.1%

問題に対する当面の重点経営施策は？ (複数回答)

- ① 経費を削減する……58.2%
- ② 販路を広げる……53.8%
- ③ 情報力を強化する……18.7%

調査員のコメントから

- 価格競争が激しく、受注はとれるものの採算が合わない。
- 安定した受注はあるものの、原材料の高騰による影響が気になります。
(その他製造業)

卸売業 ～今期は低下、来期は改善予想～

Wholesale business

今期の業況判断D.Iは前期▲3.4から今期▲13.6と悪化幅が大幅に拡大しましたが、来期は▲11.9と、今期実績比1.7ポイントの改善を見込んでいます。

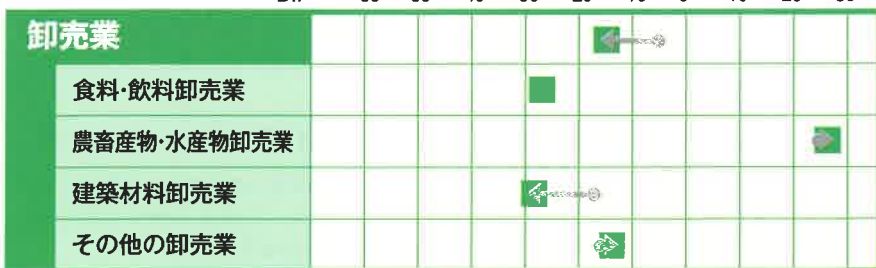
前期比売上額判断D.Iは3.4と横ばい、同収益判断D.Iは▲5.1と、前期比10.3ポイントの大幅低下となりました。

資金繰り判断D.Iは▲16.9と、前期比10.0ポイントの大幅悪化となりました。

中分類業種別では、「農畜産物・水産物卸売業」で3.6ポイント、「その他の卸売業」で2.2ポイント改善となりました。一方で「食料・飲料卸売業」では52.3ポイントの大幅悪化、「建築材料卸売業」では11.9ポイントの悪化となりました。

業況判断D.Iの推移

D.I ▲60 ▲50 ▲40 ▲30 ▲20 ▲10 0 10 20 30



■ 今期 (2017年1~3月期) ● 前期 (2016年10~12月期)

卸売業における経営上の問題は？ (複数回答)

- ① 売上の停滞・減少……42.4%
- ② 同業者間の競争の激化……33.9%
- ③ 利幅の縮小……22.0%

問題に対する当面の重点経営施策は？ (複数回答)

- ① 販路を広げる……54.2%
- ② 経費を削減する……52.5%
- ③ 情報力を強化する……18.6%

調査員のコメントから

- 金属の価格変動が激しく、利益確保に苦慮している。
(鋳物金属材料卸売業)
- 建築資材の仕入価格高騰により利益が減少している。
(建築材料卸売業)

小売業

～今期改善、来期も改善予想～

retail business

今期の業況判断D.Iは▲5.1と、前期比2.1ポイントの改善となりました。来期は▲4.1と、今期実績比1.0ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲4.1と前期比2.0ポイントの低下、同収益判断は▲3.1ポイントと、前期比1.1ポイントの改善となりました。

資金繰り判断D.Iは▲9.2と前期比3.2ポイントの改善となっています。

中分類業種別では「飲食店」が10.5ポイント、「自動車・自転車小売業」で10.0ポイントの改善となりました。「繊維・衣類・身のまわり品小売業」、「その他の小売業」で横ばい、「飲食料品小売業」では1.7ポイントの悪化となりました。

業況判断D.Iの推移



小売業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…39.8%
- ② 売上の停滞・減少 ……32.7%
- ③ 大型店との競争の激化…22.4%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 経費を削減する…64.3%
- ② 売れ筋商品を取り扱う…22.4%
- ③ 宣伝・広告を強化する…19.4%

調査員のコメントから

● 売上は僅かながら増加傾向にあるものの、キーテナントの撤退などマイナスの要因があり、楽観視出来る状況ではない。
(飲食料品小売業)

サービス業

～今期改善、来期も改善予想～

service business

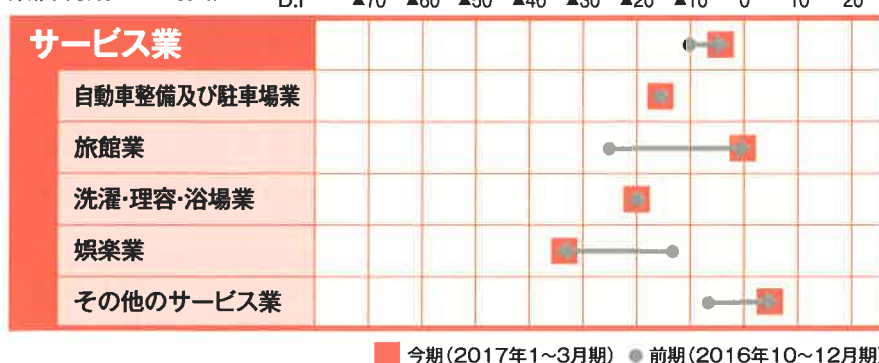
今期の業況判断D.Iは▲3.3と、前期比7.6ポイントの改善となりました。来期は▲2.2と今期実績比1.1ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲2.2と前期比5.5ポイントの低下、同収益判断D.Iは▲7.6と前期比11.9ポイントの改善となりました。

資金繰り判断D.Iは▲14.1と前期比1.1ポイントの低下となりました。

中分類業種別では、「旅館業」で25.0ポイント、「その他のサービス業」で12.1ポイントの大幅改善となりました。「自動車整備及び駐車場業」、「洗濯・理容・浴場業」では横ばい、「娯楽業」では20.8ポイントの大幅低下となりました。

業況判断D.Iの推移



サービス業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…45.7%
- ② 売上の停滞・減少 ……30.4%
- ③ 利幅の縮小…19.6%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 販路を広げる…54.3%
- ② 経費を削減する…46.7%
- ③ 人材を確保する…23.9%

調査員のコメントから

● 業況は良化傾向ではありますが、スタッフの確保が困難な状況です。
(その他サービス業)
● 同業者間の競争が激しくとも、取引先の要望に対応するために需要の高い地域へ出店計画をしています。
(物品賃貸業)

建設業

～今期改善、来期は低下予想～

construction business

今期の業況判断D.Iは13.3と前期6.1から7.2ポイント改善と好調感が強まっていますが、来期予想は今期実績比9.2ポイントの低下の4.1となっています。

前期比売上額判断D.Iは17.3と前期比10.2ポイントの改善となり、同収益判断D.Iは10.2とほぼ横ばいとなりました。

資金繰り判断D.Iは▲5.1と、前期比4.0ポイントの改善となっています。

中分類業種別では、「総合工事業」、「職別工事業」、「設備工事業」でそれぞれ7.9ポイント、5.4ポイント、3.3ポイントの改善となりました。

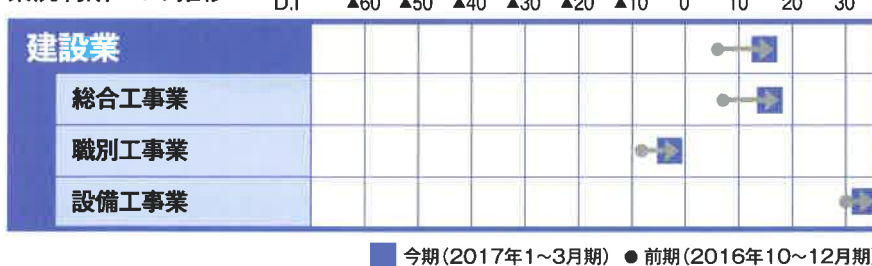
建設業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…41.8%
- ② 利幅の縮小…31.6%
- ③ 売上の停滞・減少…26.5%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 販路を広げる…52.0%
- ② 経費を削減する…45.9%
- ③ 技術力を高める…23.5%

業況判断D.Iの推移



■ 今期 (2017年1~3月) ● 前期 (2016年10~12月)

調査員のコメントから

● 千葉県や埼玉県の介護施設、マンション建設等の受注が増加しています。
(総合工事業)

不動産業

～今期は低下、来期予想は改善～

real estate business

今期の業況判断D.Iは▲10.2と、前期の▲1.7から8.5ポイントの低下と悪化幅が拡大しました。来期は▲3.4と今期実績比6.8ポイントの改善を見込んでいます。

前期比売上額判断D.Iは▲10.2、同収益判断D.Iは▲13.6とそれぞれ前期比10.2ポイント、17.0ポイントの大幅低下となりました。

資金繰り判断D.Iは▲6.8と前期比5.1ポイントの低下となりました。

中分類業種別では、「貸家・貸事務所・土地賃貸業」で15.6ポイント大幅改善、「建売業・土地売買業」、「不動産代理業・仲介業」ではそれぞれ19.3ポイント、17.6ポイントの大幅低下となりました。

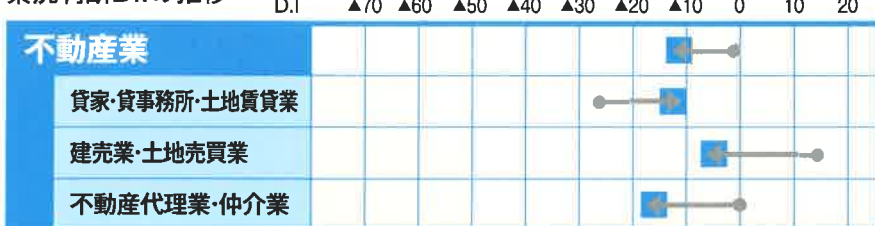
不動産業における経営上の問題は？(複数回答)

- ① 同業者間の競争の激化…47.5%
- ② 商品物件の不足 …… 28.8%
- ③ 幅の縮小/売上の停滞・減少…25.4%

問題に対する当面の重点経営施策は？(複数回答)

- ① 情報力を強化する…47.5%
- ① 販路を広げる…47.5%
- ③ 宣伝・広告を強化する…39.0%

業況判断D.Iの推移



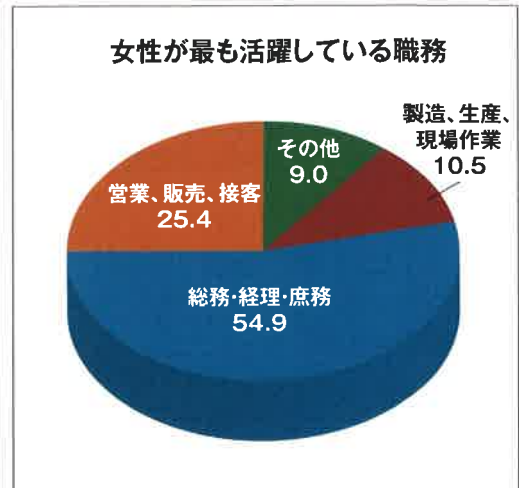
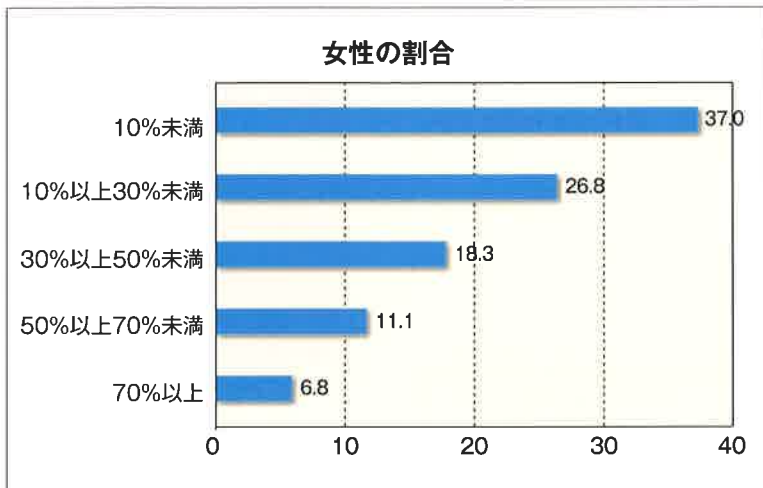
■ 今期 (2017年1~3月) ● 前期 (2016年10~12月)

調査員のコメントから

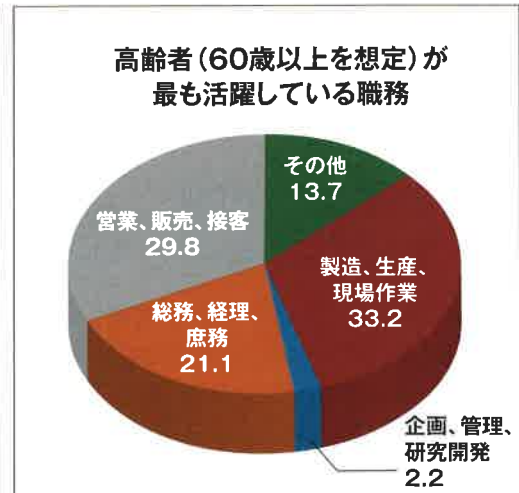
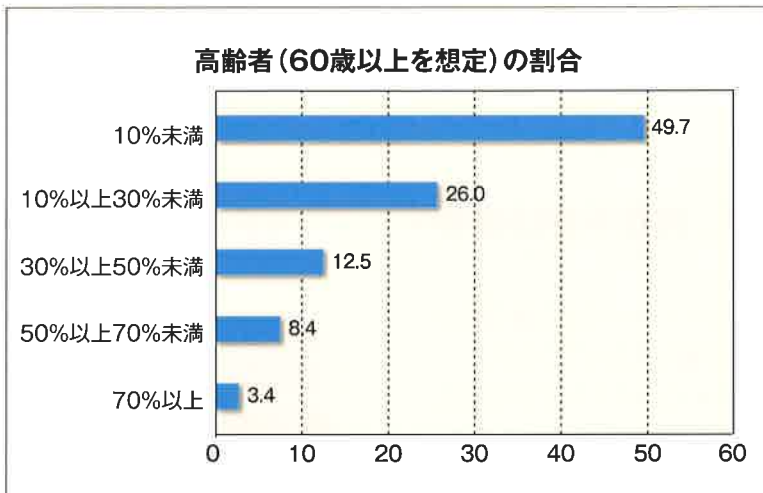
● 他社競合が激化し、良質な物件の確保が難しく、在庫不足であり、不安要素です。
(建売業・土地売買業)

特別調査 人手不足下における中小企業の人材活用策について

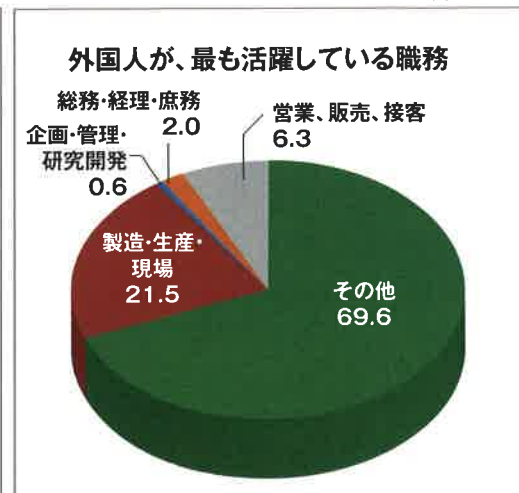
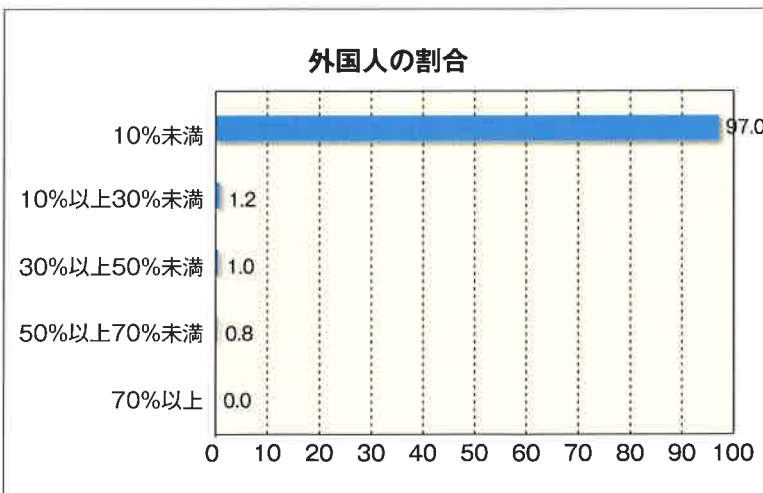
Q.1 少子高齢化社会の進展にともない、企業経営上の課題の一つとして人手不足がクローズアップされています。こうしたなか、女性の活躍推進が期待されていますが、貴社の従業員数に占める女性の割合（非正規含む）はおよそどのくらいですか？また現在、女性が最も活躍していらっしゃる職務はどのような分野ですか？（単位：%）



Q.2 問1と同様、高齢者（ここでは60歳以上を想定）の活躍推進が期待されていますが、貴社の従業員数に占める高齢者の割合（非正規含む）はおよそどのくらいですか？また、現在、高齢者が最も活躍している職務はどのような分野ですか？（単位：%）

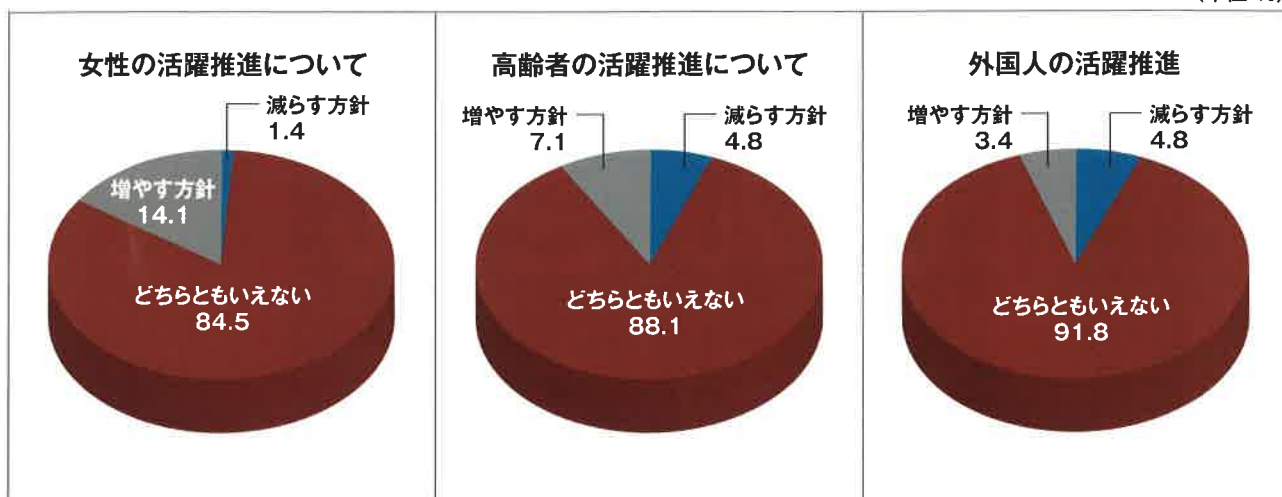


Q.3 問1と同様、外国人の活躍推進について、貴社の従業員に占める外国人の割合（非正規含む）はおよそどのくらいですか？また、現在、外国人が最も活躍している職務はどのような分野ですか？（単位：%）



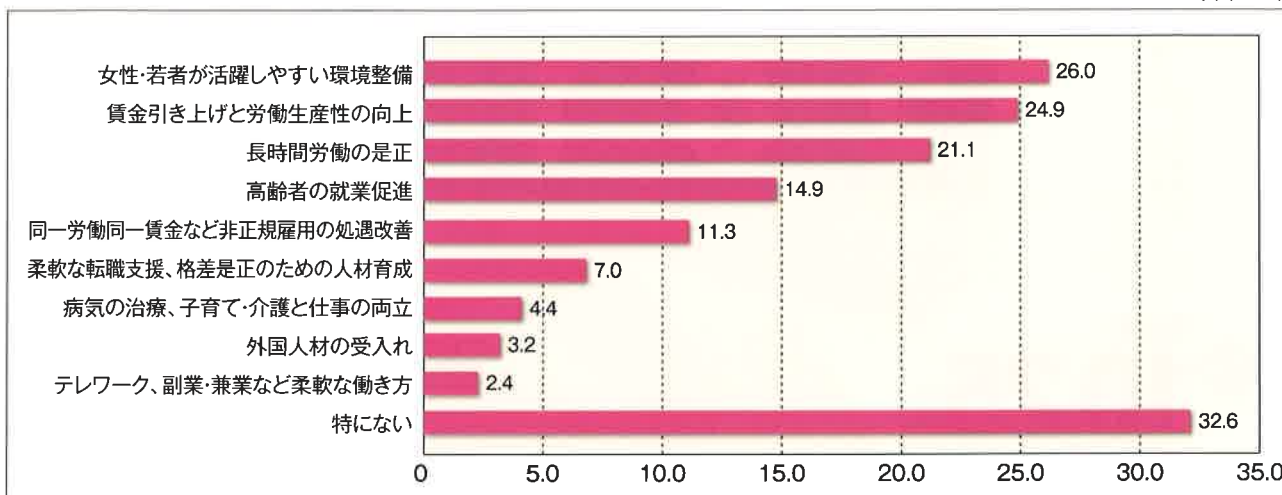
Q.4 女性、高齢者、外国人の活躍推進それぞれについて、貴社では、今後、どのようにお考えですか？

(単位:%)



Q.5 政府は、「働き方改革実現会議」において、以下の9項目を課題として検討しています。これら9項目のうち、貴社が注力しようと考えているものをお答え下さい。(複数回答)

(単位:%)



特別調査より

経営課題として「人手不足」をあげる企業も多く、また、当金庫における近年の景気動向調査結果からも、人手不足感は依然として続いている背景がうかがえます。今回は、「人手不足下における中小企業の人材活用策」について調査を実施しました。

Q1:従業員に(非正規含む)占める女性の割合について「10%未満」と回答した企業は37.0%、「10%以上30%未満」と回答した企業は26.8%でした。一方で「70%以上」と回答した企業は全体のわずか6.8%でしたが、そのなかで、小売業とサービス業が女性の占める割合の高い業種である結果となりました。また、女性が最も活躍している職務分野については、「総務・経理・処務」が54.9%と、全体の過半数を占めた結果となりました。

Q2:高齢者の割合について「10%未満」と回答した企業が49.7%と全体の約半数を占め、高齢者が最も活躍している職務分野については、「製造・生産・現場作業」が33.2%、次いで「営業・販売・接客」が

29.8%、「総務・経理・処務」が21.1%と続く結果となりました。

Q3:外国人の割合について「10%未満」と回答した企業は97.0%と、大半を占めています。特に小売業においては99%に達しています。上記の結果により、外国人が最も活躍している職務についての回答は、「その他」が約7割を占め、唯一「製造・生産・現場作業」が2割強となっています。

Q4:女性、高齢者、外国人の活躍推進にかかる今後の考え方については、どの項目も「どちらともいえない」が最も高く、「女性」が84.5%、「高齢者」が88.1%、「外国人」が91.8%でした。

Q5:政府が「働き方改革実現会議」において検討している課題に関して、今後注力しようと考えているものについては、「特にない」が32.6%で最も高く、次いで「女性・若者が活躍しやすい環境整備」26.0%、「賃金引き上げと労働生産性の向上」24.9%、「長時間労働の是正」21.1%の結果となりました。